

地元書店を通じた郷土資料収集

～“書店”と“地元”が持つ情報を活かす～

山形市立図書館(山形県山形市)

URL: <https://lib.city.yamagata.yamagata.jp/>

テーマ

図書館と書店等が連携した経営・運営

取組概要

郷土資料は地元書店から優先的に購入するとともに、書店担当者から郷土の出版物について情報提供を受けることで、資料の充実を図っている。

取組詳細

郷土資料収集にあたっては、基本的に地元書店に発注・購入している。
また、発注・納品の中で、書店担当者から新刊・既刊問わず郷土の出版物に関する情報の提供を受けることがあり、参考とすることで資料の充実を図っている。

<郷土資料の特徴や収集時の課題>

- 出版情報を得ることが難しい
- 発行部数が少ない
- 利用者の興味・関心が高い



<地元書店のもつ特長>

- 様々なルートから出版情報が入ってくる
- 在庫の確認・確保がしやすい
- 売れ行きなどの情報を持つ

<郷土資料を地元書店から優先購入するメリット>

郷土資料の購入先 = 地元書店 となっているため、次のようなメリットが期待できる。

- 地元書店 ①一定の売上げが期待できる
②図書館が求めている情報を予測しやすい
- 図書館 ①“顔が見える”ため、相談等を行いやすい
②日常業務の延長で関係強化を図ることができる



地元書店から購入した郷土資料の例

<書店担当者とのコミュニケーションの重要性>

普段から図書館や地域の状況について話しあえる関係づくりが、より有益な情報の提供につながっている。

(例) 出版された郷土資料の発注がない → 書店担当者が「買い忘れてはいないか？」と確認

基本データ

(数値は令和5年現在)

住所
山形県山形市小荷駄町
7-12
人口
(図書館が所在する市町村)
24万人
職員数(うち有資格者数)
42人(12人)
蔵書数
約40万冊

取組の成果と今後

【取り組みの成果】

書店との関係を密にすることが、郷土資料の充実につながっている。

また、図書館のみならず広く地域の情報を持つ地元書店だからこそその提案等が期待できる。

【今後】

特定の書店のみでなく、域内に存在する様々な書店と関係を強化していくことが、地域としての読書環境の整備・充実にとって重要である。